



ピラミッドはなぜ4角錐になっているの

4角錐はエジプト人好み

ピラミッドは、紀元前2700年ごろのエジプト第三王朝といわれる時代に、太陽への信こうにもとづいて、王様の墓として造られました。そのとき、ヘリオポリスというところにある神聖な石「べんべん石」の形をモデルにしたといわれています。この石の形は4角錐であり、エジプト人好みのものでありました。底辺は正確な正四角形であり、東西南北の方向をさしています。東西方向は太陽への道、南北方向はナイルへの道を表します。ピラミッド内の道は、死んだ王が、永久の生命である太陽のもとに向かう道とされています。

紀元前5世紀ごろ、ギリシャ人がエジプトに住み始めましたが、ギリシャの三角形のパンを「ピラミス」といいました。その形が似ているところから、ギリシャ人は、この4角錐の記念物を「ピラミッド」とよぶようになったのです。

大ピラミッドを造るのに20年くらいかかる

大きなピラミッドを造るのに、現場で仕事をする労働者は、4000人ぐらいいたらうといわれています。しかし、このほかに、石切り場でも多くの人たちが働いていたし、石を輸送するためにナイル川で仕事をしてた人たちもおおぜいいたでしょうから、1日に3万人～3万5000人もの人びとが働いていたらうといわれています。

ギリシャの歴史家であるヘロドトスは、10万人が3か月交代で働いたとしても、ピラミッドの完成まで30年ぐらいはかかったはずだと計算しています。

しかし、実際には、20年くらいで完成したようです。もっと小さいものは、10年前後でできたらうと思われます。(監修・田代 脩)

